

『真の地域力とは何か』地元紙掲載文 御一読下さい。

富岡製糸・群馬を超えていた南信州の養蚕業

養蚕業と風土特性との関連性

明治以降、我が国の近代化の課程において、経済発展の全容に蚕糸業(1)ほど広く深い構造的役割を担った産業はありません。それは単に工業部門のみでなく、明治から大正・昭和に至る農業の発達史の中でも、**稲作と共に構造的支柱ともいべき最重要な産業の双璧**として君臨してきました。(2)

昨年富岡製糸工場が世界遺産に登録され、蚕糸業が再認識されていますが、実態は長野県の収繭量は明治後期には、**全国の16%と全国一の座**を占め、群馬県を凌いでいました。その中でも上・下伊那郡を含む南信州は、**全県の25%の収繭量を占める有数の生産地帯**でした。桑の生育用地用に水田が桑畑に種目変更された形跡や、養蚕業盛業期に建てられた養蚕民家が点在する農村原風景は、南信州独特のものです。



今も残る養蚕業盛業時の繭蔵(飯田市座光寺地区)

ではなぜこのような山岳地帯である南信州が、全国一の養蚕盛業地になり得たのでしょうか。主要因は ①蚕の飼育環境と気候特性 ②桑の生育特性と地質特性③豊富な森林資源にあったといえます。

蚕の幼虫は3齢までは抵抗力が弱く、特に梅雨期は軟・硬化病が発生しがちでした。南信州の気候特性は乾燥・晴天日が年間を通して多く、夏季に南風が吹く気候条件は、蚕の飼育環境に対し好条件でした。また桑の根は地中内に1.5mから2mも伸びる特性があり、急斜面でも地下水を吸収して成長し干ばつにも強い植物でした。桑は洪水にも日照りにも強い植物であり、地下水条件の悪い台地・扇状地・山岳地も桑園地帯とし大いに活用されました。云わば南信州の地形全体が、桑栽培に適していたのです。(3)

一方標高に順じて多様な針・広葉樹が生育していた山林は、明治中期以降「養蚕民家」「養蚕長屋」が多数建築される中、多種多様な建築素材の供給源として大いに育成・管理されました。また蚕の飼育環境においても、春・秋蚕の適温維持のため、柵・小檜材等の広葉樹が炭火として活用され、炭火原木供給という視点でも、南信州の山林は最適地でした。(4)

このように養蚕業の盛業は生産農家のみならず、各建築業種・製炭・山林保全等、多業種に賑わいをもたらしたのです。



ノギリ屋根が特徴の天竜社工場。数年前に解体撤去された。(蚕と絹の歴史：飯田市立図書館所蔵)

地域資源保全型経済の再考

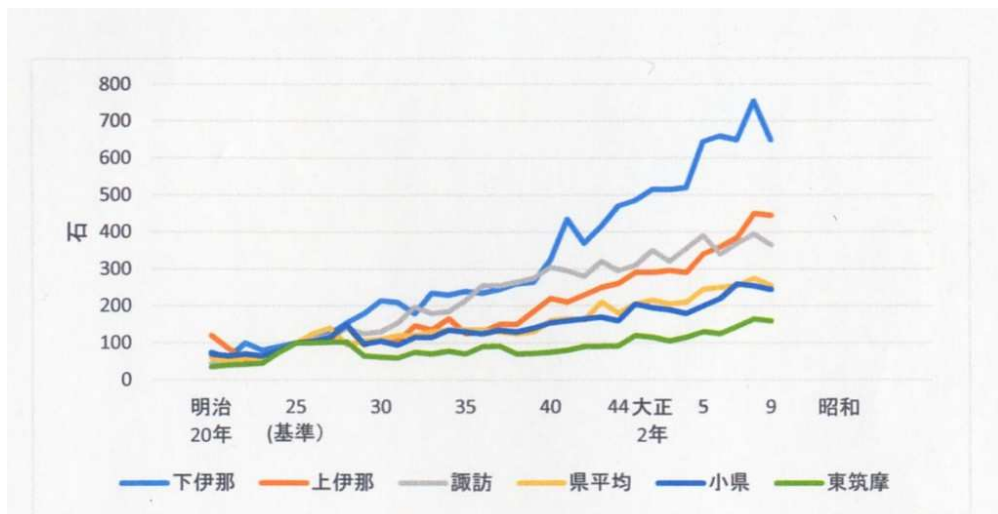
最近「循環型経済」「地産地消」という言語が地域活性化の源のようにいわれます。しかし南信州は昭和の年代・ごく最近までこのような「循環型経済」そのものである「養蚕業」により、**世界を土壌に大いに繁栄したのです。**

「世界中を見渡しても伊那谷は循環型経済の成熟している地域」…これは 取材記者として世界を飛び回った本田勝一氏の所感ですが、脈々と継承された南信州独自の地域産業・文化の再認識の必要性を強く感じるのです。

私たちのくらしは1万年に及ぶ自然との関わり合いの中で培われてきました。

20世紀は「**循環型社会**」を破壊しつつきた時代とも言われています。

天竜河岸氾濫原に広がる稲作地帯、段丘から扇状地に広がる多様な果物生産地、里山から低山帯に植生する針・広葉樹林等、もう一度豊かに恵まれた南信州地場産業の可能性の追求から始め、**地域文化の賜物として圏外に発信出来れば**と思います。



収繭量の増加指数(近代養蚕業の発展と組合製糸、平野綏、東京大学出版会 P65.1990.2)

一方身近な産業文化財であった「製糸工場」「繭蔵」等、経済成長の中、大半が解体・撤去されてしまいました。木造トラス構造・ノコギリ屋根の製糸工場、5階建て木造の繭蔵等、繁栄を誇った「養蚕業」の大切な継承遺産でした。

先人の残したこのような産業文化財から学ぶべき事柄は多く「地域資源保全型経済」のもたらず豊かさを実感するのです。なぜか GDP の成長率ばかりが重視される中、都心部から地方への移住者が増えているのも事実です。

地球規模での環境意識を踏まえながら、南信州の恵まれた地域資源を再認識し地域文化として発信出来ればと思います。真の地域力とは何か・・・人々の暮らしが質素ながらも、安定して心豊かに暮らせる南信州が創出されることを願っています。

(注)

(1)新津新生;「信州自治研第 202 号-蚕糸王国長野県はこうしてつくられた」長野県地方自治研究センター P1,2008.12「蚕糸業とは蚕種を製造し桑を与え成長させ、繭を作るまでの農業部位と、繭を煮て機械を使い糸をとる工業部位の両産業を示すが、本文論で論じる養蚕業は農業部位を示すものとする」と記述されている。

(2)平野綏「近代養蚕業の発展と組合製糸」東京大学出版界 P1,1990.2

(3)「蚕糸王国はこうしてつくられた・信州自治研・第 202 号」P11、2008、12

(4)「下伊那の林業」昭和 25 年 6 月発刊昭和 20~23 年、木炭生産量は急増し和合・売木 1.421.767 大鹿 911.712 千代 602.411 貫とある。P62、28 表